

小矢部市における大型店出店と 購買行動の変化

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース人文地理学研究室
11610137 藤田 拓也

I はじめに 1. 問題の所在

- 商業構造が変わり大型店が郊外に立地したことによって、人々の購入先は変わっていった
- 生田（1979）や戸所（1981）は、消費者の購買行動の変化を検討する際、商業構造の変容だけではなく、消費者のライフスタイル変化を見る必要があると指摘。

I はじめに 2. 研究目的

- 大型店の出店を機に商業構造の変容していく中で、従来の購買行動がいかに変化したか、その要因を検討する。

〈研究の手続き〉

- 商業構造を明らかにする
- 消費者のインタビューから消費行動の変化について分析する。

II 小矢部市における商業の外観 1. 商業の歴史的発展

- 石動は金沢と富山の中間地点にあり、宿場町としての性格。茶屋、飲食店、遊女屋などが多く立地していったことから商業的機能が発展。
- 近代以降においては工場や国道が通り発展。
- 国道の移設や、都市整備により郊外化。

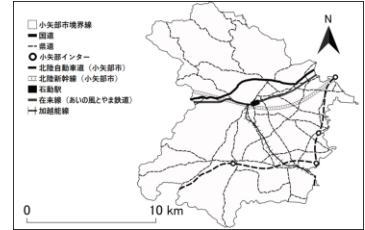


図1 研究対象地域（国土数値情報より作成）



II 小矢部市における商業の外観 2. 個人店舗および大型店舗における開業年

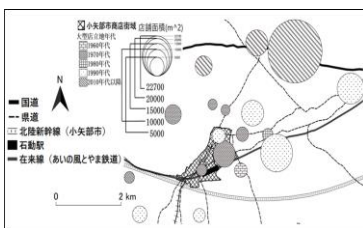


図3 小矢部市における大型店の立地動向（全国大型小売店総覧 1997-2018年より作成）

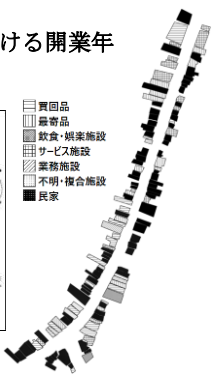


図2 商店街店舗構成図

II 小矢部市における商業の外観 3. 現在の商業の外観

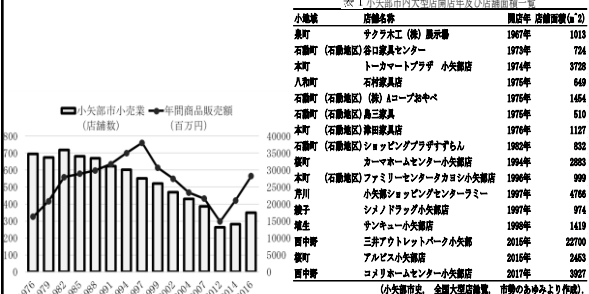


図4 小矢部市小売業店舗数及び年間販売額推移（小矢部市統計書より作成）

II 小矢部市における商業の外観

4. 中心商店街の業種構成と業態変化

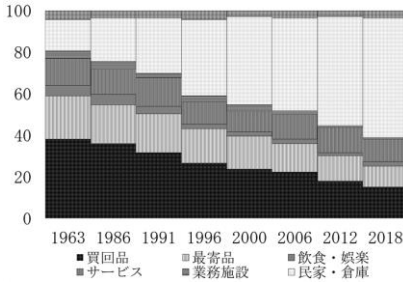


図5 小矢部市店舗構成推移*

(小矢部市・砺波市・福岡町住宅明細図及び聞き取り調査より作成)

7

III 大型店出店前後における購買行動の変化

1. 大型店の出店前における購買行動

表2 聞き取り調査回答者属性

ID	性別	年齢(代)	居住歴	居住地地区
A	男性	80	年齢に同じ	石動地区
B	女性	70	年齢に同じ	石動地区
C	男性	70	年齢に同じ	石動地区
D	女性	70	年齢に同じ	石動地区
E	女性	70	年齢に同じ	石動地区
F	男性	70	年齢に同じ	石動地区
G	女性	60	年齢に同じ	石動地区
H	女性	50	高校まで	石動地区
I	男性	50	年齢に同じ	石動地区

(聞き取り調査により作成)

- 出店前は商店街を選んでいた。
- また、回答者が学生時代は商店街で寄り道をしていたことが多かった。

8

III 大型店出店前後における購買行動の変化

2. 大型店の出店以降における購買行動

- 消費者にとって商店街を買物先として選ぶ優先順位は低くなっていった。
- また、大型店で売っていなかったら商店街に行くといったことなどの背景から、消費者は商店街で購入する機会を減らしていった。
- モータリゼーションによって、小矢部市民の行動量は広がっていった。駐車場を完備した店舗を購入先として選ぶことが消費者にとって必須となっていった。それに対して駐車場が十分完備されていない中心商店街は、利用するにあたって不便な商業施設となっていった。

9

IV 消費者における大型店選好の要因

- 購買先が変化した要因は、新規に店舗が出店したことではない。
- モータリゼーションによる消費者自身のライフスタイルの変化が大きいと考えられる。
- モータリゼーションによって、駐車場を完備した店舗を購入先として選ぶことが消費者にとって必須となっていったことに対して駐車場が十分完備されていない中心商店街は、利用するにあたって不便な商業施設となっていったため、衰退していったといえる。

10

V おわりに

大型店の出店を契機に個人商店は存続の危機にさらされている。その打開策として個人商店は、サービス・販売方法の多様化をはかることで存続しているといえる。固定客によって支えられている店舗が多いことから、大型店では対応できないようなサービスを消費者に提供することで、顧客流出を防いでいる。富山県の特産品を扱うなど、地域の行事ごとで利用する必要があるようなサービスを提供することで大型店との差別化を計っている。このように、大型店では真似できない、きめ細かいサービス等を商品販売する上で行う事が、これからの個人商店が存続する上で大切なことであるといえる。

11

参考文献

- 荒木俊之 2018. 大都市圏中心都市における地域型商店街の変容—神戸市灘区水道筋商店街を事例に. 地理科学 73(2) : 66-80.
- 五十嵐寛 1996. 富山市における中心商店街の構造変化—経営者意識との関連性を含めて. 人文地理 48(5) : 468-481.
- 生田真人 1979. 松江市の消費者行動研究にみられる適応過程. 人文地理 31(6) : 59-70.
- 小矢部市 1968. 『市勢のあゆみ』 小矢部市.
- 小矢部市 1971. 『小矢部市史上巻』 小矢部市.
- 小矢部市 1971. 『小矢部市史下巻』 小矢部市.
- 小矢部市 2002. 『小矢部市史 市制40年編』 小矢部市.
- 小矢部商工会青年部 1965. 『小矢部市における消費動向調査報告書』 小矢部商工会.
- 国土数値情報 <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/> (2018年1月11日確認)
- 戸所隆 1981. 近郊都市化地域における大型店の進出と購買行動の変化—草津地域を例に. 人文地理 33(3) : 19-38.
- 難波田隆雄 2006. 企業合理化に伴う企業城下町の中心商業地の変容—兵庫県相生市を事例として. 79(7) : 355-372.
- 林上 1979. 岐阜地域における小売業の地域的分布と消費者の購買行動. 経済地理学年報 25(1) : 32-45.
- 北陸信越運輸局富山運輸支局(2018年1月11日確認)
https://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/toyama/figure/toyama_suuji.html
- 溝尾良隆・菅原由美子(2000) 川越市一番街商店街地域における商業振興と町並み保全. 人文地理 52(3) : 84-99.
- 武者忠彦(2006) 松本市における中心市街地再開発のメカニズム—土地区画整理事業をめぐる制度・都市政治・商店経営者の戦略. 地理学評論 79(1) : 1-25.
- 安倉良二(2007) 愛媛県今治市における中心商店街の衰退と仲間型組織による再生への取り組み「今治商店街おかみさん会」の活動を中心に. 経済地理学年報 53 : 173-197.

12